

令和3年度第4回鎌倉市環境審議会会議録

- 1 開催日時 令和4年2月1日（火）午後2時から午後3時まで
- 2 開催場所 鎌倉商工会議所会館102会議室
- 3 出席者 全委員オンライン出席
猿田会長、前田委員、奈須委員、甲斐委員、小林委員、小田委員
- 4 事務局 能條環境部長、高橋環境部次長、戸川課長補佐、石川職員、錦織職員
- 5 議題 (1) 鎌倉市環境基本計画（改訂素案）について
(2) 鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画（区域施策編）（改訂素案）について
(3) 鎌倉市所管の低圧受電施設への再生可能エネルギー100%電気の導入について
(4) その他
- 6 配付資料
 - ・資料1 鎌倉市環境基本計画（改訂素案）
 - ・資料2 鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画（区域施策編）（改訂素案）
 - ・資料3 各（改定素案）主な修正箇所一覧
 - ・第13期鎌倉市環境審議会委員名簿
 - ・次第

7 会議内容

オンライン会議にあたっての注意、鳴村委員、川口委員、亀山委員が欠席で出席委員が6名であること、傍聴者はいないこと、会議及び会議録の公開について、及び配布資料の確認を行い、議事に入った。

高橋次長 本日の審議会では、議題1、議題2両方の改訂素案を確定したいと考えています。確定した改訂素案について、明日2月2日に開催される政策会議での審議を経て、2月15日から3月16日までの間パブリックコメントを実施する予定です。

そのため、委員の皆さまには事前に改訂素案の内容を御確認いただき、御意見を書面で提出していただきました。御協力ありがとうございました。皆さまから頂いた御意見を踏まえ、内容を確認し、御意見を反映させたものを本日改訂素案として提示しています。

審議を進めていただく中で修正の必要が生じた場合は、審議会の中で少しお時間をいただき、修正案を再度提示し、改めて審議していただき、本日、審議会としての改訂素案を確定したいと考えています。よろしくお願いいたします。

議題1 「鎌倉市環境基本計画（改訂素案）について」

戸川補佐 鎌倉市環境基本計画（改訂素案）について前回以降の修正箇所と概要を説明。

猿田会長 ただ今の説明について、御質問、御意見をお願いします。

小田委員 今回の審議会は質問事項が事前送付でしたので、事前に意見を出ささせていただきました。

気になったことは、全体としてエネルギーとCO₂との関連が抜け落ちていた点で、位置づけについて書き記した方がよいのかなと思いました。全体としてうまく連携が見えるような形になったと思います。ありがとうございました。

猿田会長 適正に改訂し、訂正すべきところは訂正されており、各委員の意見も改訂素案に反映されておりますので、審議会として改訂素案として確定することを了承いたします。

議題2 「鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画（区域施策編）（改訂素案）について

石川職員 区域施策編の改訂素案について、前田委員から提出された意見、及び主な修正箇所と概要について説明。

猿田会長 前田委員から実際の経験に基づいた環境への影響について貴重な御意見をいただき、実態としてよく把握できました。改訂素案にすべてを反映できるかどうかはともかく、気候変動、いまや気候危機と言われる現在の状況について、現場に即した適切な意見を提出していただき、ありがとうございました。このような貴重な経験による意見も活用し、改訂素案としてまとまったと思います。

高橋次長 今回の改訂素案について、確定ということを確認させていただきました。

議題3 鎌倉市所管の低圧受電施設への再生可能エネルギー100%電気の導入について

戸川補佐 鎌倉市所管の受電施設への再エネ導入について説明。

猿田会長 再生可能エネルギーの料金的にはどうなのでしょう。

戸川補佐 高圧受電施設については再エネを導入する前から入札による契約を行っていたため、令和3年2月の契約更新以前に料金がかかなり安くなっていました。そこに再エネ100%電気の条件を付けた結果、料金は7.5%ほど高くなりました。

令和4年度の低圧受電施設の契約については、これまでそれぞれの施設が東京電力と各々随意契約で行っていたところを一括して入札を行うことになるので、価格的にはこれまでよりも若干下がるのではないかと想定しています。

猿田会長 令和3年は再エネが非常に高くなって困った、という自治体の事例があったのですが、そういう心配はないのでしょうか。

戸川補佐 当初は、まずは環境部の低圧受電施設のみで再エネ100%電気を導入し、その事例を

他部署にも展開する予定でした。その際に提出された見積りでは現在よりも価格が安くなるというものでした。その後、環境部だけではなく全庁的に一括でまとめて入札することになったので、価格は安くなるのではないかと見込んでいます。

猿田会長 事業者も環境部との折衝なので安くしておこう、ということがあったかもしれない。今後変動することがあるのかどうかわからない。大事なのは市全体としてどうするかということ。いろいろな社会環境の変化等によって価格が変化することもあり得ます。実際に令和3年にある自治体で価格の問題にぶつかっている事例もあります。いつまでも同じ状況で続くとは限らないことに気をつける必要があります。しかし、再エネを入れて、そして安く活用していく、というのは非常に大事なことです。

基本計画でも出てきましたが、将来目標にどこまで対応していくかということは非常に難しい問題です。数字を示すことはできるけれど、対応としてはなかなか困難な面もあります。

小田委員 価格についてのお話ですが、調達方法の見直しによって価格も下がるしカーボン量も減る、ということは、やっぱりやったほうがよいという答えになります。

一方で、電力価格が変化するという点について、昨年度に電力市場の取引価格が非常に急騰したことがありました。これは、価格変動のある契約をしている方が実際に直面した問題で、電力会社も苦勞している、という事案です。

「再エネ」の意味にもよりますが、再エネ比率が高まれば市場の影響を受けないため価格の安定化も進むようにも見える一方、天気が悪化すれば他から調達せざるを得ないので影響も受けるということもあり、いろいろな可能性を考慮しながら調達していく必要があります。

低炭素電源の確保が進んでいくと、再エネ電気をプラスコストしてでも買った方がいいのか、それとも、もっと省エネ設備を入れた方がいいのか、何が一番安く CO₂を減らせるのか、といった議論ができるようになります。この電球を替えるといくらかかる、それはカーボンフリー電気を買うのとどっちが安いのか、そういう比較ができるようになるのはとてもよいことだと思います。

改訂素案の中に「再生可能エネルギー電気」という言葉が出てきますが、私自身この言葉に馴染みがなかったのでいろいろ調べてみました。経済産業省が使っていて、そういう意味でこの先使っていく言葉なのだろうと思います。また、議題3の中で「再生可能エネルギー100%電気」という言葉が出てきますが、これもこの先使われるようになるのかもしれないし、どういう呼び方がいいのか、どこかでわかり易い言葉が作られていくに違いないと思ったところです。もし他の自治体や役所、取引先などの書類の中でメジャーになる言葉が見えてるのであれば、そういった言葉を積極的に使っていくのも必要かなと思いました。

猿田会長 「再生可能エネルギー100%電気」、消費者にとっては再エネかどうかかわからないです。あくまでも契約上の話ですね。それを確認する必要はあるのでしょうか。

小田委員 再エネ電気を売っている側、あるいは使っている側は再エネ 100%という言葉を入れたいのだと思います。しかし、現実的に 100%ぴったりにしようとすると水力発電を調節しな

がら使うとか、どこかに電気を貯めて使うとかということが必要になり、かえって割高になることは間違いありません。再エネ 100%にするのは結構大変なことだと思います。100%に拘らず再エネ比率を増やしていくことの方が大事だと思います。

猿田会長 そこで蓄電池の問題などが出てくるわけですか。

小田委員 電気を調達する会社が再エネ 100%と謳えるように調整して販売するものであり、買い手は気にする必要がないのだと思います。ただ、社会全般から見ると、再エネ 100%のものを 100 使うよりは、再エネ 90%のものを 150 使うほうが再エネの量は増えるわけなので、100%にこだわるのが正解というわけではないのです。

猿田会長 これもこれからの一つの課題ですね。その辺についても鎌倉も積極的に進めていかなくてはなりません。

戸川補佐 鎌倉市が契約している株式会社エネットから、鎌倉市の令和2年度の分については北海道の水力発電の電気を充てているという報告を受けています。電力会社が再エネ電気を購入し、それを契約している需要家に割り振っていく、という仕組みで行っており、鎌倉市とは再エネ 100%の電気で契約していることから、北海道の水力発電の部分を充てている、という仕組みになっています。

猿田会長 実際に北海道の水力発電の電気が鎌倉まできているとは思えませんが、全体の流れとして、契約上ではそういうものを購入することも可能だ、ということですね。そういうことも理解していただく必要があります。

身近にあるものしか使えないということではなく、遠隔地のものも契約上購入でき、それが非常にきれいなエネルギーなのだ、ということを理解してもらわなくてはならないですね。

小田委員 そういう意味では、再エネ 100%電気を買ってくればそれで済んでしまうのか、という議論にならないような配慮が必要なのかと思いました。市内に再エネの電源を用意していくことも大事なことであり、外部から持ってきてそれを買うだけではないということのを合わせて伝えていくことも大事なことだと思います。

猿田会長 市民の方にもそういった疑問点を解消してもらい、理解してもらえるよう、行政も努力していく必要がありますね。

戸川補佐 議事録内容の確認について、及び、今後のスケジュールについて、次回の環境審議会は5月上旬に開催予定であることを説明。

猿田会長 以上で、本日の審議会を終了といたします。